

第 6 回平和に関する市民勉強会議事録

【日時】2007年6月10日(日)13:40~15:40

【場所】かしはら万葉ホール3階会議室

【参加者数】7名

【概要】奈良教育大学 田淵五十生先生に「日韓の歴史教科書と相互理解」というテーマで問題提起の話をしていただき、その後、参加者で話し合いを行なった。

【勉強会内容】

[1] 問題提起

(1) はじめに：日韓の歴史認識と葛藤

- ・ 日本と韓国は隣国ながら歴史認識をめぐって葛藤が繰り返されている。ただし、これは日韓だけでなく、世界中の多くの隣国間で生じている問題である。どの国でも歴史教科書には自国に都合の良いように書いてある。何が起こったかではなく、歴史認識の問題である。
- ・ 1951年に日韓条約の交渉が始まった。これは日韓を反共の砦としたいアメリカの斡旋の下で行なわれたが、歴史認識の違いのために14年の年月を要した。日韓基本条約は1965年締結。
- ・ 久保田発言(1953)のため、韓国側は会談の席を立ってしまったことがある。久保田発言の内容は「日本は朝鮮に鉄道や港、学校を作っており、植民地支配は朝鮮にとって有益だった。」という植民地統治恩恵論と呼ばれるものである。その後も同様の発言は繰り返し続いている。
- ・ 植民地支配に際して、日本が良いことをしたという主張はおかしい。朝鮮の言葉を禁じ、名前を変えさせたことを軽く考え、韓国人がなぜ怒るのか理解できていない。

(2) 教科書の採択をめぐっての葛藤(日本)

- ・ 1970年代の日本の中学教科書には韓国併合は12行くらいしか書かれていなかった。また、伊藤博文と並んだ韓国皇太子に日本の服装をさせている写真が掲載されていた。これは韓国併合当時の日韓の力関係を象徴している。この写真は韓国人を傷つけるものだった。今、日本ではこのような写真は載せないようにしているのに対し、逆に、韓国は日本の過去の行いの証拠として写真を載せる傾向にある。
- ・ 1990年代にかなり韓国の立場に立って記述するようになった。
- ・ 1990年代に従軍慰安婦が記載されるようになったことに対して、削除を要求する動きが出た。その中で主張が受け入れられないことに不満を持つ人たちが「新しい歴史教科書を作る会」を作り教科書の発行を始めた。2002年に採択されたのは800冊くらいのようなようだ。3年後の改訂の際には、教科書の採択権を実質的に教育委員会に移し、教員から採択権を剥奪する動きが強まった。
- ・ 一番良識的とされた日本書籍版と「新しい歴史教科書を作る会」の扶桑社版との両極を避け、無難な東京書籍版が採択されるという現象が起きている。

(3) 日本の教科書記述の問題

- ・ 戦前の教科書は人物中心に書かれている。女性は3人くらいしか登場せず、男性中心の歴史になっている。また、韓国併合については先に述べた植民地統治恩恵論そのものの記述となっている。
- ・ 現在の教科書で扶桑社版と大阪書籍版の韓国併合に関する写真を比較すると、大阪書籍版では朝鮮総督府が遠くから写しされていて王宮内に建っていることがわかるようになっている。扶桑社版では朝鮮総督府だけが大きく写っている。このように写真だけでも訴えるものが異なってくる。(朝鮮総督府の建物は1995年に壊された。今なら日帝の蛮行の証拠として残そうとしたのではないか)

(4) 韓国の歴史教科書の歴史認識

- ・ 韓国の教科書では日本で簡単に記載されている韓国併合の頃の記述が何ページにも及んでおり、日本に対する抵抗の歴史が強調されている。

(5) おわりに：両国民にとっての「和解」のプロセスは？

- ・ 韓国は過去のことばかり言うと批判する考えがあるが、それは歴史問題ではない。過去の行いをどう考えるか、歴史としてどう語り継ごうとしているか、という歴史認識の問題である。
- ・ 不幸な過去を水に流す提案は被害者側からしかできない。加害者側にできることは加害を直視することである。

[2] 質疑応答と議論

* 個人名は記入していません。以下の () 内のアルファベットが同じ発言は同じ方の発言です。

(A) 韓国の歴史教科書の問題点はどうか

(T) 韓国の教科書はナショナリズムそのものと言える。ただ、ナショナリズムを2つに分けて捉えた方がよい。一つは侵略に向かうナショナリズム、もう一つは侵略への抵抗の中のナショナリズムだ。韓国では民族のアイデンティティを保とうとする中でナショナリズムが高まり、ナショナリズムの強い教科書になっている。

ただ、ナショナリズムの強い国定教科書に対し、世界から孤立していくことを危惧し批判する人も増えてきている。

(A) 国定教科書以外を認めようという動きはあるのか

(T) おそらく、そのうち出てくると思う。

韓国では日本の教科書を国定教科書と勘違いし、例えば扶桑社の教科書が出ると、全てがその教科書になってしまったように受け止める人が多い。採用は1%にも満たないことをマスコミがきちんと伝えていない。結果的にマスコミが国際理解を妨げている。

(T) 20年前に韓国から留学してきた先生に、日本に来て衝撃を受けたことを尋ねると、伊藤博文がお札に載っていることを挙げられた。韓国にとっての侵略者をお札にするという無神経さがあった。在日の方もお札を使っただろうからきっと辛かったに違いない。一国の英雄が他国の侵略者という場合がよくあるので、今は政治家はお札に使わないという流れが世界で強まっている。歴史から学んだ知恵だ。

戦後、マッカーサーと天皇が並んで撮った写真がある。マッカーサーがリラックスしているのに対し、天皇が直立不動の体制で立っている。ここにアメリカと日本の力関係が現れていた。当時、この写真の掲載をめぐる日本とアメリカのやり取りがあったが、結局アメリカの意向で新聞に掲載された。当時の日本人は傷ついたらと思う。同じことが、先にあった伊藤博文と韓国皇太子の写真にも言える。今では日本でも韓国でも冷静に見ることができるようになってきた。

(B) 韓国と中国の間にも歴史認識に関する問題があると聞いたことがある。韓国の教科書ではどのように扱われているのか。

(T) 例えば、高句麗の広開土大王の碑は今中国の領土にある。しかし、高句麗が旧満州も勢力範囲としていたことから、韓国は旧満州もかつての領土で旧満州の文化遺産は韓民族のものだと主張する。中国も中国のものだと主張している。

(A) 韓国の中学歴史教科書を読むと、国家の始まりの記載で旧満州地域が朝鮮の範囲のように書いてあり、少し違和感を持った。高句麗・百済・新羅の三国時代に新羅が中国と手を結ぶなど、国内の争いに中国を利用しようとする場合もある一方で、中国と直接戦うことも多く、中国との関係は複雑だったようだ。その過程で認識の違いは多々あるのだと思う。

(B) 盧武鉉大統領が就任後、歴史を洗い直す委員会を作っているが、歴史教科書に反映されることはあるか。

- (T) たぶん反映されないだろう。歴史再考委員会は学問的な歴史の見直しが目的ではなく、ハンナラ党から次の大統領候補として朴正熙元大統領の娘が出てくることを想定した政治的側面が強い。
- 先ほど、中国の話が出た。韓国には中国に対しては文明を尊重しているからか、侵略されても仕方がないという意識があるようだ。ただ、明までは認めるが、清は野蛮な満州族の国として認めたくない気持ちがある。日本に対してはもともと韓国側から文化を伝えていたことから、日本にやられたことを恥とする心がある。日本と韓国は似たところがあるから、はりあう面が強いだろう。
- (C) 前々回に従軍慰安婦のテーマの時に話したことだが、世界で過去の歴史を一番反省しているのは日本ではないかと思っている。自国の教科書に植民地支配のことを書いているのは少ないようで、日本の教科書だけが悪いわけではないのだと思う。以前、イギリス・スペインの方と話した時に、彼らは植民地支配について習っていないと言っていた。
- 韓国はベトナム戦争に5万人派遣し、ベトナムで一番野蛮で嫌われていたのが韓国兵だったと本で読んだ。このようなことは韓国の教科書に書かれているのか。
- また、中国はチベットなどの少数民族に対して残虐なことをしているが、進行中の植民地支配を教科書という点からどう考えれば良いか。
- (T) 中国の共産党政権が少数民族に対する残虐な行為について教科書に書くことはありえない。
- 韓国も良心的な人がベトナム戦争について話し始めているが、教科書には反映されていない。
- 韓国では最近ベトナムからお嫁さんをもらう人が増えているらしい。しかし、半分くらいがうまくいっていない。韓国は豊かだが、男尊女卑の風土が合わないようだ。
- (A) 和解の話に関連して、従軍慰安婦の問題の時に感じたことを話したい。日本は民間基金という形で元従軍慰安婦の方に償い金を渡そうとしたが、韓国の方に受け取ってもらえず、相互理解という面でもうまくいかなかった。謝罪する側も難しいが謝罪を受け入れる側も難しいのだと感じた。ひとり一人の個人としてなら謝罪を受け入れることができても、国家を代表するような形になると謝罪を受け入れることができないという面があるのではないか。
- (T) 国家補償が難しく時間もかかることから民間でやろうとしたが、残念ながら韓国人の気持ちを全く理解しないものになってしまった。国の奨学金なら受け取れるが、可哀想だからという施しなら受け取れないと留学生は言っていた。
- (A) 戦争や植民地支配に関する和解といった場合、既に60年以上経過し当事者が非常に少なくなっている。
- あと10年、20年経過すれば実質的に当事者がいなくなる。そうなると、誰に対して誰が謝罪するのか、誰と誰が和解するのか、ということがわからなくなり、和解ということ自体ありえないような気がしている。
- (T) 加害者側と被害者側で時間が異なる。被害は次の世代へと引き継がれていくのに対し、加害は風化する。
- ただ、植民地支配を実際に体験した人と直接日本を知らない若い人とを比べると、若い人の方が日本に厳しい場合が多い。それは植民地支配を直接体験した人は日本の行なったひどい面を知っている半面、日本の良さも知っている。しかし、実際の日本を知らない人はマスコミの話から日本の悪い面だけを信じ込んでいる。和解には人と人とが直接交流し相手のことをよく知ることが大切だと思う。
- 韓国からの留学生は日本に来て日本人の良さを知る。しかし、卒業して就職しようとする则在日コリアンと同じように差別を受ける。そこで傷つき意識も変わってしまう。
- 今、日本に外国人は200万人くらいいる。かつては在日コリアンが9割を占めていたが、今は52万人くらいで中国人とほぼ同数だ。最近韓国からの留学生が減り中国からの留学生の方が多い。中国からの留学生がかつて韓国の留学生が受けたのと同じ差別を受けている。日本は一見変わったようだが、このような点は変わっていない。
- (C) 韓国の労働運動はナショナリズムが強いから活動が活発だと聞いたことがある。これは良いナショナリ

ズムなのだろうか。また、そもそも良いナショナリズムと悪いナショナリズムという区別は付くのだろうか。良いナショナリズムがあるとしても途中から悪いナショナリズムに変わってしまうこともあるのではないか

- (T) 先ほど述べたように、圧倒的な力を持つ日本に抵抗するためのナショナリズムは理解できる。しかし、韓国の優位性を他民族に要求したり排他的になったりした時は危険だ。最近、韓国企業がインドネシアで摩擦を起こしている事例もあり、危惧している。
- (C) 学校の授業では古代史から順番に習って近現代史の途中で終わっているようだが、先に近現代史を教えて残りの時間で古代史を教えたら良いと思う。
- (T) 歴史は現代を知るために、現代から問うていくことが必要。現代社会の問題が過去との対話の中でどう位置付けられるかを知るために歴史を学んでいる。しかし、歴史学習が受験のために単に暗記するだけとなっており、歴史学習の本質が忘れられている。指導要領で何を教えないといけないかは書かれているが、最初から順に教える必要はない。
- (D) 現代を知るという意味で歴史を学ぶのだとすると、中学の社会科において公民という教科がもっと重要なのではないか。新聞を利用して時事問題を扱うべきだと思う。
- (T) 社会科という教科では、「地理」は空間的な比較を、「歴史」は時間的な比較を、そして「公民」は現在の構造的問題を捉えることを目的としている。しかし、例えば、人権を学ぶ場合、人権の発達史は学んでも現在の事例は学ばない。教科書に線を引いて覚えるだけの単なる知識になってしまっている。学校の先生が意識してテストにも現代の問題とからめて出題するなど工夫をこらせば変わってくると思う。
- (D) 新聞を読むことを学校教育の中に取り入れる場合、従来の家庭教育の領域に学校教育が入り込んでいくことになる。家庭教育を考え直し、親も同時に教育するようなことも考えなくてはいけないのではないか。
- (T) 教師は親とのコミュニケーションで疲弊しているので、そういうこともあるかもしれない。新聞を授業で使おうとしても、最近は新聞を取らない家庭も増えてきているようだ。
大学の授業で5月3日の憲法記念日の新聞社5社の社説比較を学生にさせている。TVニュース、インターネット、週刊誌などの情報源の中で新聞が最も信頼されている。最も信頼度が高いとされている新聞でも、社説の主張に大きな違いがあることを認識させるようにしている。
- (D) 公職選挙法見直しの勉強会に最近参加した。国民投票法案で18歳以上に投票権を与えることになったので、民法、刑法、少年法、公職選挙法を変える作業が進んでいる。18歳を成人とする場合、18歳で社会全体をある程度把握できているようにしなければならないので、早い時期から選挙や民主主義を考えるきっかけを与えていくという意味で社会科学学習が重要になっていくと思う。
- (T) 発言することを通して人はものを考える。自分で発言し、相手の意見を聞く中で知識が形成されてくる。これを構成主義と呼んでいる。今の教育は正しい答えが既にあって、その答えを伝達しているに過ぎない。それが未熟な18歳を生んでいる。

以上

次回予定

【日時】2007年9月2日(日)13:30~15:30

【場所】かしはら万葉ホール3階会議室

【問題提起の話】

(仮題)現代の正戦論 「アメリカからの手紙」と「アメリカへの手紙」

奈良女子大学文学部准教授 柳澤有吾氏